

口頭発表「子供が育つ動物飼育活動」

安藤 富美子



I はじめに

本校は、岐阜市の西に位置する本巣市の南部にあり、周囲は田園風景と住宅地が広がる自然環境に恵まれた地域である。明治7年に創立され、長年、地域から多くの支援と協力をいただいている伝統のある小学校である。現在は、全校児童、304名、各学年2学級。

学校の教育目標、「たくましい子の育成～美しい心で よく考え やりぬく」を目指して、豊かな心と確かな学力を高め、目標に向かって力一杯取り組む「たくましき」の育成に努めている。また、弾正小『4つの伝統』として、児童会を中心に全校をあげて、「あいさつ」「なかよし」「動物ランド」「掃除」の取り組みを、年間を通して活発に実践している。特に「動物ランド」の取り組みは、本校の教育活動の重要な柱となっている。

II 動物ランドの飼育活動

1 飼育活動の目的

本校では、動物飼育活動の目的を次の3つと考えている。

- ① 生命尊重の心を育む・動物飼育の体験を通して生命の誕生や死の場面に出会い、命の尊厳に触れて、生きることの素晴らしさを学ぶ。
- ② 愛情・思いやりの心を育む・動物の様々な動きや表情、気持ちを推し測って世話をし、身近に触れ合うことで愛情と思いやりの心を育む。
- ③ 判断力・行動力を育む・飼育活動で生ずる様々な場面に対して、正しく対処していく

判断力や行動力を養う。

2 動物ランドの歴史と現在の動物

「動物ランド」は、32年前、学校に迷い込んだ1羽の傷ついたマガモを子供たちが手当てをしたことから始まる。この出会いがきっかけとなり、他の動物も飼育するようになる。子供たちは飼育小屋を作ることを提案し、当時の町の理解により「動物ランド」が完成する。その後、保護者や地域の方々の多くの協力により少しずつ充実していき、平成15年に現在の動物ランドが完成する。

現在、動物ランドには、縦20m、横15mの飼育エリアがあり、その中で、ウサギ・モルモット・チャボ・ウコッケイ・クジャク・アヒル・マガモ・インコの8種類を飼育している。子供たちは、学年ごとに動物を担当している。2年生はチャボとクジャク、3年生はウサギ、4年生はウコッケイ、5年生はアヒルとマガモ、6年生はモルモットとインコ。1年生は全部の動物たちと仲良く触れ合う。

3 学習活動と動物飼育

(1) 各領域の学習活動と動物飼育

本校では、次のように各領域の学習活動を動物飼育と関連させている。

○国語（1年生）

1年生の国語、「よく見てかこう」（書くこと）の単元では、学校で飼育している動物をよく観察して文章に書き、家族に知らせる学習を行った。ウサギ・モルモット・チャボ・クジャクなどから書きたい動物を選び、画用紙に「絵」と「見つけたこと」を書いて文章にまとめた。子供たちは日頃から特徴をとらえているため、意欲的な学習となり、色・形・動きなどを丁寧に観察できた。子供たちの動物への理解と愛着を一層深める学習になった。

○理科（4年生）

4年生の理科「動物の体のつくりと運動」では、人や動物の体の動きを観察し、骨や筋肉の動きを調べ、体のつくりと運動とのかかわりについて考えている。子供たちが実際にウサギに触れることで、人との共通点を確認したり、人と動物の特徴を調べたりすることができた。

「人間と同じように、せぼねはかたい。足は、のびちぢみしている。前足より後ろ足をよく使う。ほねやきん肉のはたらきで足や手が動く。」(観察記録)

○生活 (1・2年生)

子供たちは、生活科の時間に動物たちと触れ合う。また、毎朝登校するとすぐに動物の様子を見に行く。餌やりをしたり、抱っこしたりして触れ合う時間も多し。

「ぼくは、チャボの毛が、こんなにあったかいんだなと思いました。」「うさぎさんをひさしぶりにだっこしたら、大きくなったなと思って、もっと大きくなるのかなとふしぎに思いました。」「きょう、ツツちゃん(チャボ)をだっこした時ふるえていたので、びっくりしました。なんでふるえているんだろうと考えました。」「モルモットのなきごえが、ちゅうちゅうとなくんじゃなくて、きゅうきゅうとなくのわかりました。」など、様々な感想をもち、命を肌で感じたり成長の様子に気付いたりして、動物とのかかわりを深めることができた。

○道徳 (3年生)

「生命の尊重」「動物の愛護」「役割と責任」などの内容項目で、動物の飼育活動との関連を図りながら道徳性を養う授業を行った。

3年生で扱った資料「ありがとうチャンプ」(生命尊重)の授業では、動物飼育の体験から、動物の命を大切に作る主人公の気持ちを考え、自分の生活を振り返った。

「私の家には2ひきの犬がいます。1ひきの小さい犬が病気でなくなりました。その時は、もっと犬と会話がしたかったし、もっとかわいがってあげればよかったと、こうかいしました。私は犬が好きです。1ひきなくなつたので、もう1ひきは命を大切に、大切に育てたいです。動物もみんな、命は1つしかないからです。」

○総合的な学習の時間



飼育活動の中心となる学習の場として、動物の生態や飼育に関する体験的・探究的な学習を行っている。1学期には、動物たちと触れ合うことを通して生態や特徴をつかむこと、2学期には、動物たちにとって住みよい環境づくりを行うこと、3学期には、1年間学習したことをまとめ、次の学年に引き継ぐ活動を行う。こうしたサイクルをどの学年も行うことで、動物への関心、思いやり、愛護の心と態度を育てている。

○特別活動

児童会活動【ランド委員会の取り組み】

本校の児童会には6つの委員会があり、動

飼育活動の年間指導計画 (生活科・総合的な学習の時間)

動物ランドの飼育活動		願う子どもの姿 ランドの動物について探究し、自ら学び方を習得して「生きる力」を育む子						
目 標		<ul style="list-style-type: none"> 動物の飼育や生死に関わる体験を通して生命の大切さを理解し、動物愛護の気持ちを育てるとともに、自分の命を大切に、かいっぱい生きる態度を育てる。 動物にとってよりよい環境作りを考え、飼育方法を改善し、進んで世話をする態度を育てる。 毎日の飼育活動を仲間と助け合い、協力して取り組む力を育てる。 						
活 動 内 容		1年	2年	3年	4年	5年	6年	
1学期	4	・動物と仲良しになろう ・2年生と一緒に動物の秘密みつけをしよう ・自分たちでひみつつけをしよう	・ランド掃除確認 ・チャボとあそぼう	・ランド掃除確認 ・一年間の見通しをもとう ・ウサギとふれあおう ・秘密をみつつけよう	・ランド掃除確認 ・一年間の見通しをもとう ・ウコッケイとふれあおう ・秘密をみつつけよう ・ウコッケイが住むよりよい環境を考えよう	・ランド掃除確認 ・一年間の見通しをもとう ・アヒル、マガモとふれあおう ・秘密をみつつけよう ・見つけた秘密から作文を書こう	・ランド掃除確認 ・一年間の見通しをもとう ・モルモット、インコとふれあおう ・秘密をみつつけよう ・自分の課題を決めて発表しよう	
	5		ランドクリーン作戦①					
	6		動物ランド祭り					
	7		ランドクリーン作戦②					
2学期	9	・顔やり体験、お掃除体験 ・みつけたひみつ発表会	・チャボはかせになろう →チャボについて調べよう →調べたことを試してみよう	・ウサギが住みやすい環境を再度考えよう	・ウコッケイが住みやすい環境を再度考えよう	・アヒルやマガモの日常からできることはないか計画を立てよう ・住みよい環境を整えたりアヒルやマガモについて調べたりしよう	・インコやモルモットの日常からできることはないか計画を立てよう ・住みよい環境を整えたりインコやモルモットについて調べたりしよう	
	10	・冬に向けてランドの動物の暮らしを考えよう	→調べたことを知らせよう	・冬に向けてのウサギの暮らしを考えよう ・冬支度をしよう	・冬に向けてのウコッケイの暮らしを考えよう ・冬支度をしよう	・冬に向けてのアヒル、マガモの暮らしを考えよう ・冬支度をしよう	・冬に向けてのモルモット、インコの暮らしを考えよう ・冬支度をしよう	
	11		ランド引継ぎ会・見習い期間・次の動物の世話					
12	・冬に向けてのチャボカレンダーを作ろう	・ウサギとのふれ合いから学んだことをまとめよう	・ウコッケイとのふれ合いから学んだことをまとめよう	・アヒル、マガモとのふれ合いから学んだことをまとめよう				
3学期	1							
	2 3							

物ランドを担当する『ランド委員会』は、動物の世話をする「日常活動」と、「全校行事の企画・運営」を担当している。

①日常活動

日常活動では、⑦毎朝の健康観察 ④全校「なかよしランド」を行っている。

⑦健康観察では、当番のランド委員が、毎朝動物たちを見に行き、健康チェックをして日誌に記入する。④全校「なかよしランド」とは、毎朝、全校の子が登校後すぐに、通学班ごとに動物ランドへ動物の様子を見に行くことで、ランド委員や高学年の子が低学年に世話の仕方などを教えたりしている。

②全校行事の企画・運営

ランド委員会では、1年間に、「動物ランド祭り」（1学期）、「ミニ動物ランド祭り」（2学期）、「ランド引き継ぎ会」（3学期）を開催している。

動物ランド祭り

本校では、毎年、6月の第1土曜日に、飼育活動を通して思いやりの心や命の尊さを学ばせてくれる動物への感謝の思いを込めて、『動物ランド祭り』を開催している。「動物みこし作り」と「各学年による発表」の2つの方法を、隔年で交互に実施している。この行事では、多数の保護者や地域の方々を招いて、子供たちが担当の動物とかかわり成長している様子を発表している。

今年は、「大好きな動物たちをこれからも大事に育てよう。」などのように一人一人が願いを込めて、学級ごとに「動物みこし」を作り、学校周辺の地域をかついで歩いた。

ミニ動物ランド祭り

12月に、昼休みを利用して、動物と触れ合ったり、動物への関心を一層深めたりするために、一

週間『ミニ動物ランド祭り』を開催している。本年度は、①動物ふれ

あいコーナー ②クイズラリー ③イラストの募集、を行った。動物ふれあいコーナーで



は、動物ランドの広場にモルモットとウサギを出して、自由に触れ合えるようにした。クイズラリーでは、動物の特徴に関する問題を出して、全部回った子には、学校で栽培したフーセンカズラの種を渡した。

ランド引き継ぎ会

毎年、2月に、『ランド引き継ぎ会』を実施している。一人一人が一年間の飼育活動を振り返り、感じたことや学んだことを、実物や資料を使って、1つ下の学年に伝えている。一年間大切に育ててきた担当の動物たちの世話を、真剣にバトンタッチする場である。引



き継ぎ会の後、3週間は「ランド見習い期間」として、上級生から餌のやり方や掃除の仕方を教えてもらう。

（動物飼育活動を通して学んでいること）

子供たちは、飼育活動を通して、動物たちも人間と同じように生きていること、動物の過ごしやすい環境を整えてやらなければならないことを学んできた。飼育活動は、動物と直接かかわりあい、「命」の重みを肌で感じる活動である。動物ランドは、実践的な活動として、子供たちが6年間、動物の「命」と向き合う場である。

4 動物の管理

動物ランドの動物たちを適切に管理するために、全ての動物について「動物データ」を作成している。名前・種類・誕生日・学校に来た日・年度ごとの様子など、簡単に記録している。

動物ランドの掃除は、毎日、掃除時間に各学級の当番の子供たちと教員とで行っている。衛生面を考え、手袋とマスクを着用している。冬季には、動物を寒さから守るため、小屋の周りにビニールシートを張ったり、わらを多めに入れたりしている。

学校休業日には、日曜日を除く毎日、保護者の理解と協力のもとに10~15人の「ランド当番」の子供たちが登校し、保護者・教員と共に動物ランドの清掃と餌やりを行っている。

5 獣医師会との連携

① 学校飼育動物巡回指導

毎年、獣医師会の方々の巡回指導により、動物の健康状態の把握と、飼育管理の助言をしていただいている。本年度の巡回指導では、ニワトリの予防接種、ニワトリ・ウサギのサルモネラ、0-157等の検査のほか、施設面で、アヒル・カモの小屋に屋根を付けるよう指導していただいたので、さっそく設置した。

② 「動物博士になろう」

獣医師の先生から、動物たちの習性や正しい飼育方法についてお話を聞く会を開き、動物ランドで学年ごとに説明をもらった。「インコはさみしがりやです。」「チャボの調子が悪いと羽がボサボサになる。」「動物の部屋はいつも清潔にしておく。」など、動物飼育に関する大切な話を聞き、日頃の疑問にも応えてもらった。

6 保護者・地域の方の協力

「動物ランド」には32年の歴史がある。保護者の中にも本校で飼育活動の経験がある人が多く、動物飼育への積極的な協力が得られている。

① 動物ランド祭りへの協力

動物ランド祭りは、保護者も楽しみにしている行事である。2年に一度、子供たちが「動物みこし」を作り校区内をかついで回るとき、安全指導を担当してもらっている。約50名のPTA役員が「みこし」に付



き添ったり、交差点や危険場所に立ったりして指導をしていただいている。

② 動物ランドの整備と清掃

夏季休業中の「親子清掃活動」のとき、動物ランド内外の清掃を行っている。動物が清潔な環境で過ごせるよう、親子で一生懸命に掃除に取り組む。また、アヒル小屋の環境整備など、毎年、PTA役員の方々の積極的な支援がある。

③ 休日のランド当番

土曜日と長期休業日には、保護者がランド当番の子供と一緒に歩いて登校し、動物ランドの清掃と餌やりをしてくださる。「弾正小の子供たちが、心優しく、のびのびと育てているのは、動物たちから沢山のことを学んでいるから」として、全ての保護者が、年5回ほど休日の当番に参加していただいていることは心から感謝したいことである。

④ 地域の方の支援



動物ランドの飼育活動のために、毎年地域の農家の方々から古米や多くのわらを提供していただいている。子供たちがお礼の手紙を出すことで、地域とのつながりが深まっている。

III 動物飼育活動の成果と課題

〈成果〉

- ① 命の重みを実感できる子供が育っている。
- ② 動物への興味、愛情、探究心が育っている。
- ③ 動物の気持ちを感じ取り、優しく行動できる子供が育っている。
- ④ 自分の仕事に責任をもつ姿勢が育っている。
- ⑤ 子供・保護者・地域の方々が飼育活動に大きな価値を認めている。

〈課題〉

- ① 教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動など、各領域の学習活動と動物飼育活動とを関連させた指導をより効果的に行い、「生きる力」を育む豊かな学習ができるようにする。
- ② 動物を正しく管理していくために、飼育に関する教職員・子供・保護者の研修会を開くなど、獣医師会との一層の連携を図る。

(岐阜県本巣市立弾正小学校教諭)

